

平成24年8月15日

<教頭>

楽しみながら進める外国語活動研修講座に参加して

1. 日時 平成24年7月27日
2. 場所 北海道立教育研究所
3. 参加者 小学校教諭 15名(うち教頭1名) 中学校教諭 1名 道立特別支援学校教諭 5名
4. 内容

(1)講義 児童の主体的な自己表現をうながすコミュニケーション活動

- ・コミュニケーション能力の素地を育むことをねらいとした活動の実際
- ・児童の主体的な自己表現を促すコミュニケーション活動の工夫

北海道教育大学札幌校教授 萬屋 隆一先生

(2)講義・演習 外国語活動における指導と評価の在り方

- ・”Hi, friends”の活用
- ・他教科等との関連を図った指導
- ・ALTとTT等の指導体制の工夫
- ・視聴覚教材の活用
- ・外国語活動における評価の工夫

研究研修主事 板谷 文美子先生他

(3)外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験する授業づくり

- ・1単位時間の学習指導案の改善
- ・改善した学習指導案の交流

研究研修主事 板谷文美子先生、ALT Aileen McLaren 他

5. 内容のまとめ

(1)萬屋先生の講義

萬屋先生は、以前函館校にいらっしゃり、私が大学院にいた時も何回かお話したことがあります。また、札幌で毎年行われる北海道教育大学の小学校英語講座でも顔をよく合わせているので、今回も親しみを持って聞かせていただいた。

まず、今回改訂された **Hi, friends** であるが、英語ノートに比べてだいぶ洗練された感じがある。英語ノートは最初であり、どう使われるかわからない中発行され、だいぶ改善された。まずぱっと見てセンスがよ



く、まとまりがある。また、指導編も赤刷りに近くなって使いやすくなった。指導編はALTにも使いやすいように英語でも書かれている。

英語活動の基本的ポイントとして①知らぬうちに、楽しく何度でも、②授業は、ばらばらな活動の寄せ集めにしない ③覚えさせる工夫(リピートばかりでなく) ④口パクだけでなく、意味処理をさせる。⑤文

字を読めないといけない活動はしない。⑥聞く活動を多く取り入れる。

ねらいとして、①外国語活動を通じて、外国語の楽しさ、誰とでも話せば通じ合えるという信念を、子どもたちに体験させたい。②外国語の出会いの段階は、できる、できないではなく、どの子も、それぞれの力で外国語を使うことができるという快い印象を残したい。③小学校の先生の柔軟な発想とアイデアで笑顔あふれる外国語活動の授業を作ってほしい。

萬屋先生の小学校英語に対する期待と熱く感じた。私も英語教員の端っくれとして、小学校外国語活動の新しい動きや教育技術を学ぶ機会を大切にしていきたい。

(2)授業づくり

ももたろうのお話を使い、ももたろうについていく動物をグループごとに考え、簡単なコミュニケーションを取るという模擬授業を行った。私の班は、小学校の先生4人と特別支援学校の先生が1名の5名の班で、



たまたまある先生が口にしたティアのザウルスということになった。たまたま絵のものすごく得意な先生がいて、その話題ですっかりみんなうちとけて、準備作業をすることができた。

授業では、くじら、馬、龍、パンダなど

が登場し、ALTのももたろう役の名演技に爆笑しながらも、熱のこもった授業をす



ることができた。

(3)外国語活動における諸課題の話し合い

最近の話し合いは、ほとんどがKJである。今回も付箋に課題を書き出した。

大きく分けて、実体験を取り入れていく



こと、ALTとのコミュニケーションや打

ち合わせをしていくこと、子どもの達成感を大切にした授業づくりをすること、授業に明確な目的意識を持つことなどがあげられた。話し合いの最後にグループの若手の先生に話し合ったことを発表してもらった。

6. 感想

道教委では、次年度から中学校英語教員の採用選考の実技免除をTOEIC860以上などという話を聞いた。私にとっては雲の上の上の数値である。英語検定準2級がまぐれ当たりが多くて何とか合格した程度の実力である。

そんな私だが、8年間中学校現場で英語教師をやってきて、「指導」ということでは、様々な工夫をしてきたし、英語への思いも熱いものがある。

小学校英語に対して、

小学校に英語は入るということで、小学校には英語の免許持ちが約3%しかいないので、でもその一人として、これからの小学校英語の推進に対しては、興味を持って、研修を受け、力をつけて（英語力を保って）いきたい。また、いろんな場面で、小学校英語の素晴らしさを語っていきいたいと思う。